

説 教

Open Church 礼拝 北浜チャーチ

2022年4月24日（日）

黒田 禎一郎

主 題：「人が使えない言葉、知ってますか」

—危機管理—

聖 書：ヨハネの福音書14章1～6節

はじめに

本日の「オープン・チャーチ礼拝」に集われた皆様を歓迎します！

- ・私たちは人生において、「危機」を迎えることがあります。
予期できない出来事が突然起れば、本当に困惑してしまいます。例えば、日本は地震国で、よく地震がおこります。
- ・最近では地震学がかなり発展し、直前には分かるようになってきたようです。それでも1週間も、1ヶ月も前から分かるわけではありません。私たちにとっては、突然の出来事でしょう。
- ・数年前になりますが、私も忘れられないに地震を経験しました。
今から約5年前（2018年6月18日）、マグネチュード6.1の「大阪北部地震」です。地震は午前8時少し前に起こりました。私は鳥取県の米子キリスト教会での奉仕を終えて、大阪に戻る時でした。カーラジオで「大阪北部地震」の第一報を聞きました。高速道路を走り、大阪の自宅には夕方に着きました。ところが、自宅マンションのエレベーターは完全にストップしたままでした。
- ・私の住居は15階です。やむを得ず、階段を一段ずつ上り15階まで上がることになりました。また、その日に限り、15階の部屋に運ぶ荷物が多くありました。歩いて上るしか他に方法はありませんでしたので、階段を「フウ、フウ」と、息切れしながら、汗をかきつつ、やっと15階まで上がったことを覚えています。
それは本当に大変でした。地震は予期せずに起こるものです。
- ・私たちは人生は、予期しない出来事に遭遇することがあります。
皆さんの人生は、いかがでしょうか。避けることができる事と、避けることができないでき事があります。そのような場合、皆さんは、どうされるでしょうか。イエス・キリストは言われました。
聖 書：14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」 ヨハネ

このことばは、危機を避けることができなくても、危機を乗り越えることができると教えています。

- 世の中では、危機に出会い苦しみの中で埋もれてしまう方がいます。しかし、苦しみに出会っても、生きる人もいます。私たちに与えられた人生は一度で、貴重です。その貴重な人生を埋もれて歩むのは、望ましいことではありません。
- いいえ、聖書は創造神がおられ、神は私たちの人生が埋もれてしまうのではなく、生きる人になることを願っておられます。生きがいのある人生を送ること、それが神の願いです。
- ところで、「絶対」という言葉がありますね。絶対大丈夫と思い信頼した人が、そうではなかったという事例はあります。しかし、少し考えてみますと「絶対大丈夫」という言葉は、私たちが使えない言葉ではないかと思えます。なぜなら、人には「絶対」はあり得ないからです。
- 「絶対」という言葉をつかえるのは、ただ一人創造神だけです。イエス・キリストはこう言われました。ヨハネ福音書
14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。
- 皆さん！ 何という大胆なことばではありませんか。この言葉が真実であるならば、それは何と力強いことばではありませんか。今日は、その力強いことばから、3点を考えてみましょう。

大切なポイント

1. イエスは「わたしが道である」と言われた

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

1) 道を外す人

- 多くの人々が、生きる道を求めています。世の中には、事業やスポーツで成功をおさめた方がいます。しかし一方では、病める人、悩みをかかえている人、戦っている人がいます。みな、道を求めているのではないのでしょうか。
- そこで多数の人々が、助けを求め宗教に走り、修行を行い、お勤めを行い、励んでいます。しかし、どこまで行けば満たされ、卒業できるのでしょうか。
- 「道を外す」という言葉があります。それは人として生きる上で、本来行っただけいけない道のことです。あってはならないこと、許されないことです。その

ような歩みをするを「道を外す」と言います。

- ・人は誤った道を進むと、シグナルが発生します。➡「良心」の痛みです。良心は心の内に存在します。人が「道を外す」ならば、良心が痛み警告を発します。ですから、人が「道を外す」生き方をするなら、必ずシグナル、警告が発せられるものです。
- ・一方、良心に従い行動する人を「良心的な人」と言います。「良心」、それは大切なバロメーターです。

2) 良心的に生きる人

- ・皆さんは、ご存知でしょうか？
聖書は、私たち人間は3つのものから構成されていると教えています。
 - ① 身体（肉体、からだ）
 - ② 心（意識、良心、感情、意思、人格等）
 - ③ 霊（創造神と交わる器官）
- ・今、私たちが取り上げているのは、②の「心」に存在する「良心」のことで。それは創造神が人の心に与えられたものです。

{例 話}

 - ・今から約11年前（2011年6月8日）ですが、じつに不思議な事件が明らかになりました。かつてドイツ・ナチス政権時代、オランダ人でナチス・ドイツに抵抗していたバイザーという活動家女性がいました。彼女はその頃、クリーという実業家がナチス・ドイツと手を組んでいるといううわさを聞き激怒しました。当時は反ナチス運動が盛んでした。
 - ・やがて戦争は終わり、ドイツは敗北しました。クリーは逮捕され、そして裁判にかけられました。しかしバイザーという女性は、それでは納得しませんでした。彼女はクリーが正しい処罰を受けていないことに憤慨しました。そこで彼女は1946年3月1日、彼を「正義の名のもと」で暗殺してしまいました。バイザーは、じつに激しい気質をもった女性活動家でした、
 - ・しかし、クリーが死亡した後、彼女が知らなかった本当の姿が明らかになってきました。クリーはナチス政権下でユダヤ人と手を組んだのではなく、ユダヤ人を保護し、彼らに食料や生活用品を密かに与えていました。
 - ・その事実を知った活動家バイザーは、その時すでに96歳となっていました。彼女は65年前にクリーを殺害したことを、心激しく迫られました。もういたたまれなくなった活動家バイザーは、自分が犯した過ちを告白しました。さらにクリーの子ども、孫たちにも謝罪をしました。
 - ・65年前に自分が正しいと思い殺害したことの真実を知ったとき、彼女は、心が責められました。彼女の心には「良心」がありました。良心は、彼女が

道を外してしまった時、警告を発したのでした。

- ・「道を外す」という行為は不幸です。人間が本来歩むべき道、それは真理の道であるべきです。
- ・イエス・キリストは「**わたしが道です**」と言われました。そして、こう言われました。ヨハネの福音書
4:14 **しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことがありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」**
- ・イエスにお従いする道、それは真に幸いな人に変える道です。なぜなら、「良心に生きる人」となるからです。そして人々からも愛される存在となります。それは正しい道（真理）です。それが2番目のポイントです。

2. イエスは「わたしは真理です」と言われた

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

1) 真理は絶対的基準

- ・「真理」とは、正義のことです。公平でもあります。真理は絶対的な基準です。今の世界には、大丈夫というものはありません。なぜなら人の教えは変化していくからです。多くの人々は大丈夫と思い生きています。しかし、どう見ても人間社会には、確かな、絶対的な、信頼できるものはありません。
- ・イエスのご自分を「真理」であると言われましたが、真理は基準であり、模範の型であり、揺るがない不動のものです。そのようなものが、私たちの周りに存在するでしょうか。
- ・イデオロギーや思想は、歴史とともに変化してきました。世界の独裁者は、自分のイデオロギーを信じ、理想を追い求め戦いを続けています。その結果、それに従わない人々は苦難を味わっています。
- ・世界には無数の宗教があります。未開発国に行っても宗教は存在しますし、先進国と呼ばれる国にも、信仰対象はあります。人は道を求めています、真理の道を見出していません。イエスは「**わたしは真理です**」と言われました。
- ・聖書はイエス・キリストが「真理」であると教えています。

『例 話』

- ・こんな話を聞きました。ある教会で礼拝後、一人の信者さんが牧師のもとに来て言いました。「先生。みことばどおりです。」「何がみことばどおりですか」
- ・「私は年をとったためか、夜になるとあれこれ思いにふけて涙を流すことが

多くあります。でも心が苦しい時、先生が言われたように祈ってみたのです。
『神様がともにおられるので勝利できます。』と祈ったら、心が熱くなり、神様の慰めで心が満たされるのを感じました。」

2) 真理は平安を与える

- そうです。あれこれ思いにふける夜、複雑な問題を抱えて朝を迎えるならば、混乱に陥ります。朝早く起きて、静かな奥まった部屋に入り、神さまに心配事をすべて打ち明けてください。そうすれば、汚れた思いや間違った考えがすえてふるいにかけてられ、健全な考えだけが残ります。
- 神は謙遜にひざまずいて祈る祈りを、聞いてくださいます。驚くべき慰めと恵みを与えてくださいます。ここで教えられることがあります。
 - ① あらゆる思い煩いや雑念は、祈りの課題となること
 - ② 憎しみが感謝に変えられること
 - ③ 不安が賛美に変えられること
- 愛する皆さん。私たちは考えなければなりません。考えるといっても、心配するものではありません。神を信じて考えることです。神は真理であるお方ですから、信じることです。
- イエス・キリストは「[わたしは真理です](#)」と言われました。

3. イエスは「わたしがいのちなのです」と言われた

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

1) 危機管理

- 「いのち」は人間の根源にかかわることです。今の時代は危機の時代と呼ばれます。不透明で理不尽な国際情勢、異常気象による自然災害がつづいています。人々はいつも、どこかで不安をいただいています。若者が未来に対して、バラ色の人生を描くことができず、恐れをいただいています。(真面目な人ほど深刻) 未来を考えると深刻な問題です。
- このような時代に求められることは、まさに「**危機管理能力**」です。歴史を振り返るならば、偉大な指導者たちは人生の中で、危機や失敗を経験しなかった人たちはいません。むしろ、人生の危機を克服した経験のある人たちです。
- そこで、私たちは危機にどのように向かえば良いでしょうか。危機管理能力を

高めるには、私たちはどうすれば良いでしょうか。2点

① 視点を変えること

- ・危機問題の渦中に置かれると、人は平常心を失いがちです。(中にはパニックになる人も) そこで大切なことは、「危機」ではなく、「創造神」に目を向けることです。その神に助けを求めることです。人間的にはとても解決できないような問題であっても、克服することは可能です。

② 心を治めること

- ・「危機管理能力」とは、何よりも自分の心を治めることです。心が揺らぎ、不安定な状態になれば、正しい判断をくだせません。聖書は心を治めることが重要であると教えています。 箴言4章

4:23 何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれから湧く。

- ・「危機管理能力」は、何よりもまず神に依り頼み、神の助けを求めることです。全てのことを益と変えてくださる神を信じ、信頼することです。

イザヤ26章

26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

- ・ここで「志の堅固な」とは、どんな状況でも変わることなく神を信じ、依り頼む姿勢を指しています。神はそのような人には平安を与えてくださいます。ですから、神にある人は、海が荒れて波が高く、暴風が吹き荒れる中でも、海の底は、いつも静かであるように、どのような危機の嵐の中でも内面はいつも静かでいられるのです。それは神が与える祝福です。

2) イエスの来臨目的

- ・なぜ、イエス・キリストがこの世に来られたのでしょうか。

① 私たちの生き方の視点を変えるため

② 私たちが心を治めるため

- ・広辞苑によれば、心を「治める」とは「一定の地域を長として支配し、安定させる。心を落ち着かせること。」と説明されています。イエスの来臨は、私たちの「心」を治めるためです。
- ・しかし、人は自力で心を治められません。なせなら心の中には、エゴ(自我)という固い自分が存在しているからです。そして罪を犯す弱い存在であるからです。イエスはその私たちのために、私たちの弱さを全部背負い十字架にかかられました。そして死を破り復活されました。勝利者です。
- ・イエス・キリストは、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」と明白に宣言されました。イエス・キリストを信じるだけで、神は私たちの罪を赦

し、お救いくださいます。イエスは神であり、「ことば」に権威をお持ちです。
あなたがイエス・キリストを信じるなら救われます。

ま と め

主 題：「人が使えない言葉、知ってますか」

—危機管理—

- ・今朝、神は私たちにお語りくださいました。今の世界情勢は正に危機的状況で、混沌としています。先が見えない時代であり、私たちはどう生きるべきでしょうか。 イエス・キリストは言われました。
14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。 ヨハネ
- ・人間社会では、絶対という言葉は使えません。しかし世界をお造りくださった神は違います。神が語られる「ことば」(聖書)には権威が秘められています。イエス・キリストは言われました。
14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。
- ・いかがでしょうか。あなたも、人生をイエス・キリストにお委ねされませんか。そして幸いな人生を過ごされませんか。

* God bless you!